

北九州市立菊陵中学校
学校だより
令和3年12月10日号
校長 上 赤 義 人

学校教育目標
生徒一人一人の個性の伸長を図り、
徳・知・体の調和のとれた、
感謝の心をもつ自主した生徒の育成

こなな社会（世の中）にひれば… 「バスと赤ちゃん」

以前、テレビニュースを見ていたら、外国でのある出来事を伝えていました。泣きじゃくる赤ちゃんとその母親が、満員のバスの中にいる映像でした。バスは、なかなか出発せずバスの運転手は、その母親の座席に行き、「あなたがいるから、バスが発車できない」と強い口調で言っていました。それを聞いた母親も周りの乗客も何も答えることはなく、その間も赤ちゃんの泣き声は、車内に響き渡りました。

次の瞬間、赤ちゃんを抱いたまま母親は、バスを降り途方にくれていました。

日本にも、数十年前、これと似

満員のバスの車内は、立ち並ぶ人の熱気と暖房とで、不快なものでした。バスが静かに走り出した時、後方から赤ちゃんの火のついたような鳴き声が聞こえました。人の熱気と暖房とで、赤ちゃんにとって泣く意外になかったのだと思いました。泣き叫ぶ赤ちゃんを乗せて、バスは、新宿に向けて走り出しました。バスが次のバス停に着いた時、何人かが降り始めました。最後の人が降りるとき、後方から「待ってください。降ります」という若い女性の声が聞こえました。その人は、人の間をかき分けるように前の方へ進んで来ます。その時、私は、その人が泣いた赤ちゃんを抱いていたお母さんだとわかりました。そのお母さんが、運転手さんの横まで行き、お金を払おうとする。運転手さんは、「目的地はどこですか」聞いています。その女性は「この毒そうに小さな声で、」新宿までなのですが、子どもが泣くので「ここで降ります」と答えました。すると運転手さんは、少し考えてからマイクのスイッチを入れました。「皆さん、この若いお母さんは新宿まで行くのですが、赤ちゃんが泣いているので、皆さんにご迷惑がかかるので、ここで降りると言っています。子どもは小さい時は泣きまます。赤ちゃんは泣くのが仕事です。どうぞ皆さん、少しの間、赤ちゃんとお母さんを一緒に乗せてください。」と言いました。私は、どうしていいかわからず、たぶんみんなもそうだったと思います。ほんの何秒かが過ぎたとき、一人の拍手につられて、バスの乗客全員の拍手が返事となっていたのです。若いお母さんは何度も頭を下げていました。

たような出来事があり、道徳の授業での資料となっています。(下左記)

この資料の光景には、なんとなく心温まります。バスという小さな社会での人々の心のつながりが、大きな力となっていくことができたらすてきなことだと思います。是非、そんな社会を目指していきたいものです。

ところで、最初にお話しした外国でのバスのことですが、そのあとの話があります。赤ちゃんを抱えたお母さんが、バスを降りた後、乗客が一人、また一人バスを降り始めました。バスを降りた乗客の一人は、その母親に対して、「あなたが降りるなら、私たちも降りるわ…」と声をかけ歩いて行きました。そして、すべての乗客が降りたのでした。

日本でも外国でも、世界中で、人の優しさや思いやりがあふれる新たな年にしたいです。コロナ禍の今だからこそ…。

保護者・地域の方々へ

夏休みが終わってから、四カ月が経りました。この期間、「芸術の秋・スポーツの秋」にふさわしい学校行事が続き、生徒たちが目を輝かせて、はつらつと活動する姿を多く見ることができました。この間、生徒会活動や部活動では、三年生から二年生にバトン・タッチが行われ、二年生が名実ともに本校の主役となり、頼もしく感じさせるほど成長しました。一年生も様々な役割を担うようになり、もう立派な中学生として胸をはって学校生活を楽しめるようになりました。三年生は、自分の進路に向き合い、厳しい現実と前に悩みを深めながらも、将来への夢や希望を膨らませ、その実現のために自分が進むべき道としっかりと見つめ、進路決定を進めています。季節が確実に変わっていくように、一人一人の生徒は大きく変容を遂げ、確実に成長しています。このような生徒の成長を支えていただいている保護者・地域の方々には、感謝しております。ありがとうございます。今後とも、よろしく申し上げます。

まもなく冬休みを迎えます。冬休みには、様々な年中行事もあるかと思えます。是非、ご家庭で、お正月についてお子様と話をしてみてください。お正月は、日本の伝統的な行事であることは言うまでもありません。お正月の行事には、ひとつひとつの意味があります。その意味を子どもたちに語ることで、いにしえの人々の思いや知恵を知るとともに、今を生きていることの大切さを感じることもできるのではないのでしょうか。神様（年神様）をお迎えするために、しめ飾りや鏡餅が飾られます。おせら料理は、神様への収穫物の報告や感謝の意でつくられます。その料理一つ一つには子孫繁栄などの願いが込められています。子どもたちと、ゆっくりそんな話ができる正月にしたいものです。よいお年をお迎えください。

